

平成26年6月26日
気象庁地震火山部

お知らせ

～「強震波形データ（95型）2013年版」の一部ファイルでフォーマットが異なっていることについて～

日頃から気象庁の強震観測業務に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

気象庁では、95型震度計による強震波形データ（加速度）を強震波形データ（95型）として提供しております。

強震波形データ（95型）2013年版の一部ファイルについて、フォーマットが説明ファイル（w_format.txt）と異なっているものがございました。

具体的には別紙のとおりです。

まことに申し訳ございませんが、よろしくお願い申し上げます。

(1)震源情報部分のフォーマットについて

w_format.txt の 3. 波形データファイルの作成方法 3-1. データのフォーマット

(1) 震度情報部で

「※※※→→→	3成分合成ブロック震度	5B SS***(*.*)
	3成分ブロック最大加速度	7B MS*****(*.*)gal)
	3成分ブロック最大加速度観測日時	7B MTS****
	3成分ブロック最大加速度観測分秒	5B *****
	3成分ブロック 8gal 継続時間	6B RS1***(*.*)秒)
	3成分ブロック 25gal 継続時間	6B RS2***(*.*)秒)
	3成分ブロック 80gal 継続時間	6B RS3***(*.*)秒)
	3成分ブロック 250gal 継続時間	6B RS4***(*.*)秒)
	3成分ブロック 800gal 継続時間	6B RS5***(*.*)秒)

とございますが、例えば N5022204.E6A の場合、この部分は

SS000MS0000MTS0000000000RS1000RS2000RS3000RS4000RS5000

と、数値がすべて 0 で、桁数も 3 桁ではなく、4 桁になっております。

以下のファイルがこのようになっておりました

N1220447.900
 N1220447.909
 N1220447.E2C
 N2251624.903
 N3180653.516
 N3180653.517
 N3180653.518
 N3180653.51B
 N5022204.E6A

(2) 4 bit 圧縮時の末尾ダミーについて

w_format.txt の 3. 波形データファイルの作成方法 3-1. データのフォーマット

(2) 波形データ部で

「差分サイズが 0 (4 ビット) の場合は、差分データが 99 個のため 49.5 バイトであるが最後に 4 ビット追加して 50 バイトのデータにする。この場合、99 番目の差分データの下位 4 ビットは使用してはならない。このときの波形データ部分のサイズは、第一サンプル 4 バイトと差分データ 50 バイトで合計 54 バイトとなる」

とございますが、以下に示したファイルには、その末尾の 4 bit が追加されておられません。

N1280342.902

N1280342.903

N1280342.909

N1312353.903

N2010105.902

N2010105.903

N2010105.51B

N2010105.E2A